

スポーツ言語学は日本語、日本語教育を救えるか

清水 泰生（同志社大学）

app@fsinet.or.jp

【要約】

本稿でスポーツ科学の分野とは何か、スポーツとことばの研究とは何か、スポーツ言語学とは何かについて述べた。本稿の最初にスポーツ学の分野を紹介し、次に、著者の過去の研究を紹介、そして、その研究を振り返りながら今までの言語研究の盲点及びスポーツ言語学の特徴を述べた。東京五輪・パラリンピック、それ以降のイベントに向けての日本語の電子テキストや身体活動を使った日本語の教え方等の提言も行った。最後に、スポーツ科学、スポーツ言語学から日本語、日本語教育関係者が学べる事があり、その逆もあることを述べた。

1. はじめに

2020年は、東京五輪・パラリンピックの年である。言語、日本語、日本語教育界は多言語表示の研究等に力を入れているようだ。しかし、著者が知る限りでは、スポーツ関係の学会に言語関係者が招かれて話をするのはほとんどないようである。ましてや、自らスポーツ関連の学会へ行って研究発表をすることもなく、身内の人(言語の人)たちだけで議論しあっている。また、言語関係者は「スポーツとことば」にはどんなものがあるのかあまり考えたことがない。

筆者は「スポーツとことば」の重要性に気づき2000年ごろから「スポーツとことば」の研究をはじめ2014年9月にスポーツ言語学会を立ち上げた。筆者のこれまでの研究やスポーツ言語学の取り組みを振り返りながらスポーツ、スポーツ言語学が言語学、日本語教育にどのような点で貢献できるか、また、起爆剤になるのかについて考えてみたい。

2. スポーツの研究分野とは

まず、スポーツの学問とはどのような分野があるのかについて考えてみたい。スポーツ科学は学際的だと言われているが、どうであろうか。スポーツの研究分野では以下のような分野が挙げられる。

運動生理学、バイオメカニクス（運動力学）、スポーツ法学、スポーツ社会学、スポーツ史、スポーツ教育学、体育原論、運動生理学、スポーツ医学、スポーツ栄養学、スポーツ哲学、スポーツ政策、スポーツ経営学、スポーツ民族学、スポーツメディア学、コーチング学、スポーツ栄養学、スポーツ心理学など

以上、スポーツ科学の分野を取り上げたが、上記のそれぞれの分野に、陸上競技、卓球などそれぞれの競技種目等があり、その上、障がい者のスポーツ、武道、舞踊やeスポーツの分野があり、学際的であり多彩であると言える。それから、日本でのスポーツ科学の学会は以下のようなものがある。

（日本スポーツ体育健康科学学術連合加盟学術団体加盟の団体）

大阪体育学会、体育史学会、東京体育学会、一般社団法人日本アスレティックトレーニング学会、日本アダプテッド体育・スポーツ学会、日本運動疫学会、一般社団法人日本運動・スポーツ科学学会、日本コー

チング学会、日本ゴルフ学会、日本生涯スポーツ学会、公益社団法人日本女子体育連盟、日本スポーツ運動学会、特定非営利活動法人日本スポーツ栄養学会、日本スポーツ教育学会、日本スポーツ社会学会、日本スポーツ心理学会、日本スポーツパフォーマンス学会、日本スポーツとジェンダー学会、日本体育科教育学会、一般社団法人日本体育学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本体育・スポーツ政策学会、日本体育・スポーツ哲学学会、日本体育測定評価学会、一般社団法人日本体力医学会、日本テニス学会、日本トレーニング科学学会、日本バイオメカニクス学会、日本発育発達学会、日本バレーボール学会、日本フットボール学会、日本武道学会、ランニング学会、日本スポーツマネジメント学会¹

日本スポーツ体育健康科学学術連合非加盟学術団体でよく知られている団体は以下のとおりである。日本スポーツ法学会、一般社団法人日本未病システム学会、日本養生学会、一般社団法人日本臨床スポーツ医学会²

このようにスポーツ科学の分野は、学際的で多彩であることが分かる。これらの学問分野でスポーツ言語学を除いて言語研究と強いかかわりのある分野が何があるかを考えてみると、強くかかわりがあると考えられるのは、スポーツ法学、スポーツ社会学、スポーツ史、体育原論、スポーツ哲学、スポーツ民族学、スポーツメディア学、コーチング学、スポーツ心理学等であろう。具体例を交えて少し説明するとスポーツ法学は、法律の原文が言語研究と関わる。スポーツ史、スポーツ哲学は、スポーツの用語を考察する際に関わり³、スポーツ社会学については、スポーツメディアの研究⁴に言語研究が関与し、コーチング学⁵については指示言語が言語研究と関わる。今までスポーツ科学分野で、スポーツを対象とした言語研究はあったと思うが、あくまでもスポーツ科学研究関係者には「言語学的手法は自分自身の研究の道具の一つにすぎない」というスタンスで、スポーツの言葉そのものの研究が一つの独立した学問としては考えていなかったと言える。

3. スポーツ言語学とは何か

さて、スポーツ言語学とは何であろうか。清水（2016）によると、スポーツ言語学とは、（当たり前のことであるが）「スポーツに関する言葉の研究」である。清水（2016）によると大きく分けて五分野に関する研究である。その五分野とは以下のとおりである。

- その一 スポーツ用語に関する研究
- その二 スポーツのメディア媒体に関する研究
- その三 競技者、指導者等のやり取りに関する研究
- その四 外国語習得にスポーツ、身体運動を用いる研究
- その五 その他

その一は、上記に書いてある通りスポーツ用語についての研究、その二は新聞、実況中継等の言葉の分析、その三は、コーチが選手に指示する言語（指示言語）や選手同士の言葉かけ等に関する研究、その四は VT 法などのような身体を使った外国語教授法の開発、その五は上記の四つの分野に入らない研究であ

¹ 2020 横浜スポーツ学術会議 HP http://yokohama2020.jp/jp/index_jp.html (2020 年 1 月 25 日アクセス) より

² 2020 横浜スポーツ学術会議 HP http://yokohama2020.jp/jp/index_jp.html (2020 年 1 月 25 日アクセス) より

³ 代表的な研究に、阿部(1995)がある。

⁴ 代表的な研究に、山本(2012)がある。

⁵ 代表的な研究に、山口(2006)がある。

る⁶。

4. スポーツ言語学、他のスポーツの分野との関連

スポーツ言語学はいつ生まれたのであろうか。清水（2006c）で「スポーツ言語学」という用語がはじめて使われた。この研究が「スポーツとことば」に関する独立した学問分野、つまり、スポーツ言語学の始まりだと言える。それまでは、言語分野、スポーツの分野とも「スポーツとことば」の研究はそれぞれの学問分野の一部、もしくはそれぞれの学問をする一道具に過ぎなかった。そして、時は流れて2014年にスポーツ言語学会が設立し、それから独立した学問分野として本格的に歩み始めた。それまでは、スポーツ用語の分析に関しては、（スポーツ科学の分野では）体育原論の分野で、言語学の語彙研究の手法を使って研究が行われてきた。そして、実況中継の分析に関しては、言語学の分野では、社会言語学でわずかであるが研究されており、一方、スポーツ科学の分野では、スポーツ社会学でよく研究されていた。なお、言葉かけに関しては、スポーツ科学では、コーチングの分野で研究されているが、言語学の分野では、ほとんど研究されていなかった。

少し、話が変わるかもしれないが、言語学のみ視点、手法の研究だと、どうしても機械的な言葉の分類のみで終わってしまう。スポーツの持つ特異性、背景、バイアスを無視してしまい、研究の方向性や目的、展望のない機械的な分類に終わってしまう危険性がある。その事については後で述べてみたいと思う。

5. 筆者の研究

筆者のこれまでの研究を振り返りながらスポーツ言語学について述べてみたい。

5. 1 スポーツ用語の研究

著者の2000年前半の研究は、スポーツ用語研究、特に陸上競技の用語研究であった。その研究の一つに「ゼッケン」「ナンバーカード」の用語の研究がある。それについて述べてみたい。

「ゼッケン」というのは日本だけの呼び名で、その語源も諸説あり、その中でも有力な説なのは、ドイツ語のデッケン（覆う・おおう）が語源で、競馬や乗馬などで鞍の下に敷いて、ウマを覆っていた数字の書いた毛布からきたものである。そして、1994年の日本陸上競技連盟競技規定改正から「ゼッケン」を「ナンバーカード」と言うようになった⁷。ただ、陸上競技以外のスポーツ、たとえば、卓球、柔道は「ゼッケン」のままである。これらの競技は布に数を表記しない（名前や所属を記す）ので「ナンバー(数)」ではなく「ゼッケン」のままである。それから、スポーツの団体は縦の組織であり、それぞれのスポーツ団体は、独立独歩であるので陸上競技が名称をかえても、他のスポーツは追随はしない。

さて、話を戻して、日本陸上競技連盟競技規則⁸によれば、ナンバーカードに関する規定は以下の通りである。

ナンバーカードのナンバーは、通常はプログラムに記載のものと同じもの（ナンバー）でなければならない。競技の時、トレーニングシャツを着る時は、同じ方法でその上につけなければならない。なお、ナンバーカード（ビブス）の一部または全部に、数字の代わりに競技者の名前またはその他の適切な識別記号を記載することが認められる。番号を記載する場合は、スタートリストもしくはプログラム上で各競技

⁶ それぞれの分野の先行研究は清水（2016）参照。

⁷ 清水(2006c)

⁸ 『陸上競技ルールブック2019』

<https://www.jaaf.or.jp/about/rule/>（URL. 2020年1月10日アクセス）より

者に割り振られた番号を記載する。どんな競技会であろうと、競技者が自分のナンバーカード（ビブス）その他の標識を着用せずに参加することは一切認められない。

それから、ナンバーカード（ビブス）は配布された形で着用しなければならず、切ったり折り畳んだりあるいはいかなる方法でも見えなくしてはならない。長距離種目においては、風通しをよくするためにナンバーカード（ビブス）に穴をあけてもよいが、文字や数字の部分に穴があってはならない。

写真判定装置を使用する競技会において、主催者は競技者のショーツまたは下半身の横に粘着性の腰ナンバー標識をつけさせることができる。〔日本国内〕① ナンバーカード（ビブス）は、各人に4枚を交付することが望ましい。② ナンバーカード（ビブス）の大きさは、横24 cm以内×縦20 cm以内とし、数字の大きさは縦最低6 cm～最高10 cmとする。腰ナンバー標識は18 cm×12 cmを標準とする。③ ナンバーカード（ビブス）上部の広告（スポンサー名）は、縦6 cm以内、横24 cm以内とする。ナンバーカード（ビブス）の広告は、男女別に分けることができる。④ ナンバーカード（ビブス）の下部の大会名は、縦4 cm以内とする。⑤ ナンバーカード（ビブス）の広告を含め、競技者がナンバーカード（ビブス）を切ったり、曲げたり、文字を隠したりした時は、出場停止にすることができる。

以上のように日本陸上競技連盟競技規則は、細かい規則が数多くある。最近の競技規則で「ナンバーカード」とともに「ビブス」が明記されるようになった。ビブスの略「ビブ」は海外のマラソンのHP、プログラムなどで使われるようになってきている。

以上のように日本陸上競技連盟競技規則では「ナンバーカード」である。しかし、陸上競技の審判の間で「ナンバーカード」を「ゼッケン」と言っており（というよりそう言っているのが多い）用語が揺れている。では、メディアはどうであろうか。

そのことについて筆者は清水（2006c）で発表した。清水（2006c）は1994年1月1日から2006年10月31日（読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞）のすべての欄のデータベースを調べた。その結果を簡単に述べると以下のとおりである。

- ① ナンバーカード…読売新聞 29 件、朝日新聞 29 件、産経新聞 1 件…すべて陸上競技である。毎日新聞は 107 件であり車のナンバープレートを除く 103 件が陸上競技であった。
- ② ゼッケン…朝日新聞 1236 件、読売新聞 591 件、毎日新聞 792 件、産経新聞 315 件
（陸上競技が多く含まれ、野球、スキー、サッカー、柔道、ウォーキング、デモなども含まれる）

なお、清水（2006b）で次の陸上競技の報道で使われている「ゼッケン」の例を示した。

（ゼッケンの例）2003年7月29日産経新聞：「685」のゼッケンをつけた7レーンのアスリート

以上、見てみると「ゼッケン」と「ナンバーカード」の用語の揺れがあることが分かる。ただ、日本陸上競技連盟競技規則が改定されてから、かなり月日経ち、メディアでも「ナンバーカード」が定着してきているように思われる。最近の新聞データ、競技プログラム等からデータを採集してみて清水（2006c）と比較すると面白いことが分かるかもしれない。今後の課題としたい。

なお、スポーツの分野は、スポーツ関係者ではないとよいデータにありつけないことがある。新聞のデータベースからデータを採集するだけなら、スポーツに無縁の人でもできる。しかし、それだけでは、スポーツの言葉の本質には届かないであろう。陸上競技を例を挙げると、毎年改正される日本陸上競技連盟競技規則、各地方の陸上競技協会の会報、学校等の陸上競技誌、陸上競技マガジンなどの専門誌がありそれらに当たらないと正確なデータにありつけない。そして、他のスポーツの場合、陸上競技とは

違う資料に当たる必要がある。言語の研究者だから専門用語の研究が十分できると思うのは思い違いであり、そのような思い違いは、多くの言語研究者が持っているように思われる。こういう資料等の入手に関する情報はその分野に関わっていないと分からない事が多い。だから、こういう専門分野の言語研究をする際は、言語研究者もその専門分野の知識、経験、人脈を持つことが大切だと言える。

話は戻って「ゼッケン」「ナンバーカード」とよく似た例として「ゴール」と「フィニッシュ」がある。1994年の日本陸上競技連盟競技規則改正で「ゴール」を「フィニッシュ」に改められているが、新聞等のメディアへの定着はどうかあろうか。「フィニッシュ」はトライアスロンやスケートにも使われているが他の競技はどうなのかも調べてみる必要がある。

その事とは少し話が変わるが、日本の場合、42.195キロでないのにマラソンと言ったり、「10キロマラソン」のように距離を付けて言ったりする。「マラソン」という言葉が示す距離は、本来は、42.195キロだけである。日本で使う「マラソン」という言葉には厳密性がない（用語使用のあいまいさ）と言える。このあいまいさは日本で目立っているように思われる。おそらく、他の国は、マラソンはフルマラソンだけで、それ以外は、ハーフマラソン、10キロレースと厳密に使い分けられていると思われる。一方、日本の場合、距離は厳密で、欧米の場合、距離があいまいなことが多々ある。例を挙げると「ベニスマラソン10キロ」の部は10キロよりも約800メートルほど長い。日本だったら「10キロの部」とは言わないであろう。またマラソンは「26.2マイル」であるが「26マイル」だけ述べている大会は割とあるように思う。

5. 2 スポーツメディアとことば

「スポーツメディアのことば」については、筆者が2005年から2015年ごろまでに手掛けた研究である。「スポーツメディアのことば」の代表的なものに実況中継の言葉の分析と新聞の言葉の分析があげられる。筆者もそれらを中心に行った。実況中継については次のような研究をした。

①スポーツ社会学会大会シンポジウム（2004年）でスポーツ実況中継の言葉の特徴について考察を行った⁹。対象は、札幌オリンピックと長野オリンピックの実況のスキージャンプの実況中継で、テレビの音声の文字おこしをし、テレビの画像を参考にして談話分析を行った。それぞれのアナウンサーの談話の特徴は以下のとおりである¹⁰。

札幌オリンピックのアナウンサーの談話の特徴…完結した文、反復が少ない（例：飛んだ 決まった 見事なジャンプ）

長野オリンピックのアナウンサーの談話の特徴…単語の反復、絶叫、命令調（例：立て 立て 立ってくれ）

それ以外にも、北京オリンピックの陸上競技の実況の談話について調べ、陸上競技の種目によって談話のパターンが異なることを述べた¹¹。

それから、（著者の）新聞の言葉の研究は、市民マラソンについての新聞に出ている語の分析である。東京マラソン、大阪マラソンについて、新聞記事のデータベースをもとに、そこで使われている語の語数（頻度）分析を行い上位語にどのようなものがあるかを調べた。結果は、東京マラソンは、「東京が一つになる」、「3万人」、「7時間」、「新宿」、「浅草」、「銀座」の言葉が上位語にランクインしており

⁹ 清水他(2006a)

¹⁰ 清水他(2006a)

¹¹ 清水(2010)

12、大阪マラソンは、「大阪城」、「ランニング教室」、「東京マラソン」が上位語にランクインしていることが分かった¹³。ただ、ここで気をつけなければならないことは、やはりスポーツには背景、裏事情、バイアスがあることである。東京マラソンの場合、主催者が、メディア関係者に向けて『東京マラソンメディアガイド』を配布している。それには、メディアに取り上げてほしい項目や知ってほしい項目が出ている。このガイドブックの存在、内容を見無視をして新聞のコーパスで語数（語の使用頻度）を分析しても十分効果があるかどうか疑わしい。つまり、「コーパスによるテキストマインドの手法で分析、考察しました、そして、××語、△△の内容が多く見られたので……の特徴があります。重要です」と言っても、「そういう××語、△△の内容や……の特徴は『メディアガイド』に書かれているので、わざわざ語の使用頻度を分析する必要がない」と言われたら、返す言葉ないであろう。ただ、『メディアガイド』に取り上げられていることがどの程度新聞記事に反映されているかを検証するのが研究の目的であれば、それは価値のある研究だと言える。

実況中継ではないが、陸上競技には、場内アナウンスがある。筆者は2008年から2017年ごろまで陸上競技の大会の場内アナウンスを担当し場内アナウンスの言葉について考察をしていた。

陸上競技の場内アナウンスの言葉は詳細な取り決め、決まりがある。それらは『日本陸上競技連盟アナウンスのしおり』『陸上競技のアナウンサー～初めてマイクにむかう人へ～』¹⁴に書かれている。その一例をあげると以下のとおりである。

その1：放送（通達）の優先は、トラック競技が優先（フィールド競技は後）である。

その2：数字の読み方にも決まりがある。例として7をあげると、「しち」ではなく「なな」である。「いち」と間違えないためである。

その3：速報、公式記録が出るまで曖昧表現等でなければならない。例えば、日本記録が明らかに出たのに「日本記録が出た模様です。」と言い、一着がフィニッシュした後「フィニッシュタイマーは○秒○○で止まっています」等とアナウンスするなどがそうである。理由は風（100m、200mなどは追い風2m以上なら追い風参考記録になる。）や走路問題等で後で失格かもしれないのと、1着に入った選手の身体の一部（必ずしもトルソーではない）が光電管を遮ることによって測る参考記録であり、正式記録の「速報」ではないからである。フィニッシュタイマーが一度消えてから、再びレーンナンバー、ナンバー、記録が表示されたものが、正式記録の「速報」であり、その際には「正式記録は○秒○○」「フィニッシュタイマーに1着の正式記録が表示されました」等とアナウンスする¹⁵。

その4：男性選手は、「○○君」、女性選手は「○○さん」言うこと

それから、以下も「アナウンスのしおり」に出ている談話例である。

【例16 フィニッシュのアナウンス基本パターン】

①フィニッシュタイマーは○秒○○で止まっています。（観衆の注目をフィニッシュタイマーに促す）

12 清水(2015a)より

13 2013年5月28日 The International Journal of Arts & Sciences Conference 於:ハーバード大学 (題:About the newspaper reports of Osaka marathon) 清水泰生発表のハンドアウトより

14 「アナウンスのしおり」(2017年度版) https://www.jaaf.or.jp/pdf/about/resist/technical/2017announcer_guide.pdf (URL. 2020年1月10日アクセス)

「陸上競技のアナウンサー～初めてマイクにむかう人へ～」

<https://www.jaaf.or.jp/pdf/about/resist/technical/2018-announcer-guide-beginners.pdf> (URL. 2020年1月10日アクセス)

15 「アナウンスのしおり」(2017年度版)より

- ②メインスタンド前の風の表示は、〔 追い風／向い風 〕 〇.〇m。 (風力速報表示器に注目を促す)
- ③ スクリーンにはリプレイが出ています。(スクリーンに注目を促す) 4レーンは〇〇君、3レーンは〇〇君、6レーンは〇〇君。
- ④ 間もなく、フィニッシュタイマーに1着の正式記録が表示されます。(フィニッシュタイマーに注目を促す) ⑤ 1着は〇レーン、〇〇君、〔 所属 〕。〇秒〇〇。追い風(向い風) 〇.〇mでした。

以上のようにアナウンスの言い方にも決まりがたくさんあって、こういうことを知っておかなければ場内アナウンスができないし研究することもできないであろう。

5. 3 東京五輪・パラリンピックと外国語

2013年に東京五輪・パラリンピック開催が決まり筆者は、五輪・パラリンピックの教材を考えるようになった。そして、2015年に『オリンピック日本語会話』(テキスト)構想について発表をした¹⁶。

『オリンピック日本語会話』構想について(清水(2015b))

東京オリンピック2020に訪れる外国人は短期間だけ日本を訪れる人が多いので、日本語をじっくり勉強する人ではない。だから、日本語教育は、観光日本語の一つであり、テキストは場面シラバス中心のテキストになる。

『オリンピック日本語会話』は仮名とローマ字表記、英語訳は優先的に作成し、可能であれば、中国語、ハングル語、タイ、ベトナム語、フランス語、ロシア語版等を作っていくことになるであろう。

『こんにちは、にほんご!』『オリンピック英会話』等を基にして考えると内容は以下のとおりであろう。

1. ひらがな
2. カタカナ
3. 町で見る漢字
4. 数字、年、時間、値段、天気
5. あいさつ(例: こんにちは)
6. 日本人がはやく話し過ぎる場合(例: ゆっくり話してください)
7. 一般的な質問と応答(例: ~ですか? → 「はい、~」。 「いいえ、~」)
8. 道、場所をたずねる。(例: ~どこですか。)
9. 願いをする(例: ~してください。)
10. レストランで(例: パンとコーヒーをお願いします)
11. ホテルにて(例: 今日宿泊の予約をしているトムです。)
12. 乗り物に乗る(例: タクシーに乗る: ~までいくらですか)
13. 買い物する(例: デパート: これください)
14. 緊急・トラブルに直面する(例: 病気の場面: ~が痛い)
15. オリンピックスタジアム、競技会場にて
16. 主要なオリンピック種目の用語等(例: 陸上競技: ホームストレート)

『オリンピック日本語会話』はネット版だと音声教材にもなる。なお、15に関してであるが、サッカー

¹⁶ 清水(2015b) 参照

と開催地が変わった競歩、マラソン（ただし、パラリンピックのマラソンの開催地は東京である）などは開催地は札幌など東京以外の地域にまたがっているため、それぞれの会場の会話例が必要であろう¹⁷。（例：札幌会場の会話例）それから、オリンピックの観戦の万国共通の人気種目等は、開会式、陸上競技、サッカー、閉会式だと言える¹⁸。『オリンピック日本語会話』はそれらの種目を中心に取り上げるべきであろう。

しかし、他の種目は国によって違う。たとえば、卓球は日本、中国では人気があるがアメリカは人気がない。だからまず、世界的に人気のあるスポーツ、競技種目を先に作ってあとで個々の国で人気のあるものを作ることが大切であろう。

ところで、『オリンピック日本語会話』は具体的な内容は、どうであろうか。清水（2015b）によると各課ごとにフレーズ、入れ替え語、関連語等で構成される。例をあげると次のようになる。

〈一例〉

☆〈買い物する〉

表現① これ ください

Kore kudasai

これ、それ、あれ（遠近感を示すイラストも掲載）

Kore Sore Are

表現② いくらですか。

Ikura desu ka

表現③ これをお願いします

Kore onegai shimasu

（キュー）これ、それ、あれ

（上記の日本語のフレーズ、単語のよこに英語の対訳がつく）

（例）表現① これ ください This one , Please.

Kore kudasai

この日本語会話テキストや言語政策は東京五輪、パラリンピック後に非常に重要になってくる。実は、東京五輪・パラリンピック¹⁹の後は次のイベントが待ち構えている。

2021年5月ワールドマスターズゲームズ関西

2025年4月～10月大阪万博

2026年9月下旬アジア大会（愛知県、名古屋市共催）

2030年札幌冬季五輪（立候補の予定）

それから、以下の大会が、ユース五輪を除いて、前回から年月が経っており、そろそろ開催されてもおかしくないであろう。

¹⁷ 清水（2015b）一部修正

¹⁸ 清水（2015b）一部修正

¹⁹ 2020年1月から世界に蔓延している新型コロナウイルスのため2020年3月23日現在、五輪、パラリンピックの延期の可能性が非常に高くなってきた。ただ本稿を提出の時（2020年3月23日）はまだ延期が正式決定が発表されていないので2020年7月24日に開催されることを前提に述べている。

ユニバーシアード（1995 年以来開催なし）

世界陸上（2007 年以来開催なし）

ワールドカップ（2002 年以来開催なし）

ワールドゲームズ（2001 年以来開催なし）

ユースオリンピック（未開催）

以上、述べたように国際イベントが目白押しである。参加選手の規模は五輪約 12000 人、パラリンピック約 4000 人、それに対して東京マラソンの外国人ランナーは約 6400 人、愛知、名古屋のアジア大会は参加選手は 10000 人くらいである。大会期間は五輪、パラリンピック合わせて約 1 か月、それに対してスポーツではないが万博は約 6 カ月である。

東京五輪・パラリンピックばかりにフォーカスをしてはいけけない。東京五輪・パラリンピック、そしてその先を見据えて言語政策、言語活動をしないといけない²⁰。だから、東京五輪・パラリンピックの後にも使える電子版のテキストを作成しなければならないであろう²¹。

5. 4 五輪マラソンと言語学

言語学とマラソン、五輪のつながりはないように思うが実はそうではない。アテネで第一回五輪が開かれるとき最初はマラソンは種目に入っていなかった。マラソンの闘いの故事を偲んだ言語学者ミシェル・ブレアルの提案により、1896 年第 1 回オリンピックにマラソン競走が加えられた。五輪の翌 1897 年にボストンマラソンが創始されるなど、欧米諸国から競技が広がった。このことは言語を研究をしているものは一応、知識として知っておいてよいであろう。

5. 5 身体活動と日本語教育

筆者は、現在、「五輪・パラリンピック等の日本語教材」の開発、研究とともに「身体活動と日本語」についても考察している。それは、体操しながら日本語を学習するという「日本語体操」というものである。1992 年「英会話体操 (Zuikin English)」がフジテレビで放映され、そのバージョン版として日本語の体操が放映された。その日本語の体操が、コミカルすぎて、ユーチューブにそれが流されるとコメディイとして海外で人気が出た。しかし、語学番組として全く認められなかった。しかし、体操は有酸素運動であり、有酸素運動は脳の活性化に良いと言われているので、この体操を手直して、外国語教育として利用することができるのではないかと思う。体全体を使ったもので有酸素運動のものは TPR、先ほどの日本語体操、演劇を使った外国語学習以外、どうもなさそうである。体操以外は、ダンス、ヨガ、太極拳、ジョギングも有酸素運動なので、それを使った教授法はどうであろうか。ランニング日本語学習は、走りながら日本語を勉強することであり、筧川幸司氏がそれを実践したようであるが²²実践報告書がなく科学的な裏づけもない。

ランニングは記憶力には非常に良いという大脳生理学の研究報告がある。その一例をあげると。以下のものである。

²⁰ スポーツアナリティクスジャパン 2020（2020 年 2 月 1 日開催）は東京五輪、パラリンピックをフォーカスするのではなく 10 年先を見据えることが趣旨で開催された。

²¹ 現在、考察、作業中である。

²² 逆転人生「中国のカリスマ日本語教師 涙の青春スピーチ」NHK2019 年 10 月 21 日放映で筧川幸司氏は語っている。

ワーキングメモリとランニング (healthpress より²³)

ランニングは、脂肪の燃焼、筋力の強化、体力の向上を促しつつ、体も脳も人生も鍛えてくれる。有酸素運動は、脳を活性化するのだ。ランニングすると、脳のどの部位が活性化するのだろうか？

MRI などの画像技術は、ランニングのメカニズムを解明したため、数多くの知見が結集されているが、今、注目されているのは脳のワーキングメモリーと呼ぶ前頭前野の「8 野」と「46 野」だ。脳の最高司令塔として様々な精神活動を司っている前頭前野。特にランニングによって活性化するのは、前頭前野の 8 野と 46 野だ。

これを見てみると、スポーツと記憶とは大いに関係があると言える。筆者は有酸素運動、無酸素運動が記憶、外国語にどのような効果があるかを研究し始めている。そのことについては別の稿で述べてみたい。

6. 日本語、言語関係者はあまりスポーツをしないのはなぜか

そのことについて、データがないので、データを取る必要があるが、私の周りで日本語、言語関係者でスポーツをしている人はほとんどいない。日本語、言語関係者は、忙しくて時間がないという人がいるが、15 分で持続性のトレーニングが出来るタバタプロトコル²⁴がある。それから、忙しいと言われて医学、自然科学系の人もよくスポーツをしているようだ。スポーツと力学、医学と関連があるので彼らは、自分の研究の一環としてやっているかもしれない。また、日本語、言語関係者は、気質的には、黒、白をつけるのは好きではない人が多いようで、そのためかスポーツをしない人が多い。スポーツをしている人は負けをよく経験していて失敗、負けることに対して免疫力があるが、スポーツをしていない人は、負けを経験するのが少ないので失敗、負ける、批判されるのが怖く、精神的にもろいかもしれない。だから、強い心を作るにはスポーツをするのがよいと思われる。また、スポーツはいろいろなアクシデントが起こり、スポーツを通してアクシデントへの対応能力も養える。日本語教室などの教育活動の場所で起こるアクシデントの対応にもスポーツは役に立つのではないかと。また、有酸素運動はダイエットに有効であると言われる。日本語、言語関係の先生は、異文化に興味がある人が多いので食文化（食べ物）に関心があるようで、よく facebook に食べ物の写真を載せている。食べ物が好きでよく食べているからかもしれないが、割と恰幅の良い人が多いような気がする。健康そうに見えるのでのぞましいと思うが、あまりに恰幅がよすぎるとかえって生活習慣病などの病気になりやすいので気を付けた方がよいのかもしれない²⁵。

7. まとめ

「スポーツ言語学は日本語、日本語教育を救えるか」という過激なタイトルであったが、スポーツ科学、スポーツ言語学から以下のことが学び取れるのではないかと。

- ①多様な研究アプローチが身につく
- ②言語を機械的に分類するだけでは難しい言語研究の分野を知り、そういう分野ではその背景となる専門分野の知識が必要であることを知る

それから、スポーツ言語学を通して、言語関係者は、他分野を知る、全く違う他分野をやることも大切

²³ <http://healthpress.jp/2017/01/post-2747.html> (URL. 2020年1月10日アクセス) 参照

²⁴ <http://www.ritsumei.ac.jp/rs/category/tokushu/151106/> (URL. 2020年1月10日アクセス) 参照

²⁵ このことは、一般の人にも当然当てはまることでもある。

であることを知るであろう。そして、また、全く違う分野での場（対流試合）²⁶で研究発表をする必要があることも知るであろう。それから、言語関係者の今後の課題は、自分の行ってきた言語、言語教育の研究成果が、他の学問分野に貢献できているかどうかを振りかえって考えることである。言語関係者は、このことについて貢献できていると思うかもしれないが、私の目には、自分の学問分野の社会だけにとどまっているように思える。言語村、日本語村²⁷から広い学問世界へ。スポーツ学、スポーツ言語学をはじめ、他の分野がその事をさりげなくほめかしているのかもしれない。それとは反対に、他分野から言語学、日本語学等のデータを取り方等が緻密だということはよく聞く。このような利点は、他分野が取り入れるべき点であり、言語関係者は、そのことを他分野の人に向かって強くアピールしなければならない。

参考文献

- 阿部生雄(1995)「辞書に見る“スポーツ”概念の日本的受容」『スポーツ文化論シリーズ⑤外来スポーツの理解と普及』創文企画
- 清水泰生他(2006a)「スポーツとことば-「古館伊知郎」とスポーツ実況-」『スポーツ社会学研究』13 日本スポーツ社会学会
- 清水泰生(2006b)「コース」「レーン」・「ゴール」「フィニッシュ(ライン)」について『日本語辞書研究4』(港の人)
- 清水泰生(2006c)「スポーツことば今むかし」『日本語学』12月号(明治書院)
- 清水泰生(2007)「スポーツ実況中継についての覚書—陸上競技を通して—」『近思学報』4(港の人)
- 清水泰生(2010)「陸上競技のトラック・ロードレースの実況中継—言葉を中心に—」『放送芸術学』24(日本放送芸術学会)
- 清水泰生(2015a)「東京マラソンと日本—メディア報道を中心に—」『国際研究論叢』28-2
- 清水泰生(2015b)『オリンピック日本語会話』(テキスト)構想 The 22nd Princeton Japanese Pedagogy Forum PROCEEDINGS
- 清水泰生(2016)「スポーツとことわざ・ことわざ類について」『スポーツ言語学研究』創刊号
- 深澤弘樹(2012)「スポーツ実況研究の視座—『物語』の視点を中心に—」『駒澤社会学研究』44
- 山口政信(2006)『スポーツに言葉を』遊戯社
- 山本浩(2012)「スポーツ実況論」『メディアスポーツへの招待』ミネルヴァ書房

²⁶ スポーツ史の大家稲垣正浩氏が生前私に他流試合の重要性を語っていた。

²⁷ スポーツの分野でも、スポーツアナリティクスジャパン 2020 は、自身の HP で「スポーツ村」を脱却したいことを公に述べている。<http://jsaa.org/news/3158/> (2020年1月20日アクセス)